2020.2.19発行
奄美野生生物保護センター
〒894-3104　鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551
TEL：0997-55-8620　FAX：0997-55-8621
URL：http://kyushu.env.go.jp/okinawa/awcc/

編集・発行
奄美自然体験活動推進協議会
通巻61号

奄美野生生物保護センター
ニュースレター

奄美の風だより

センター ＆ 協議会 News

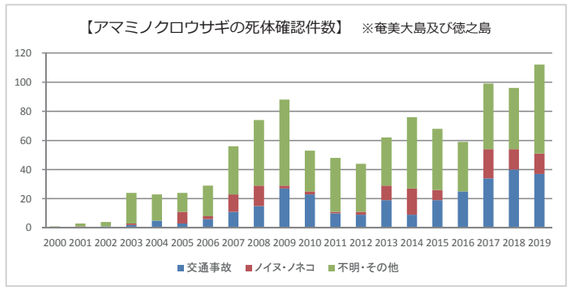
第２０回やせいのいきもの絵画展
テーマ：「見つけて、教えて！奄美のくらしと自然のつながり」
と　き：2019 年 12 月 21 日～2020 年２月２日

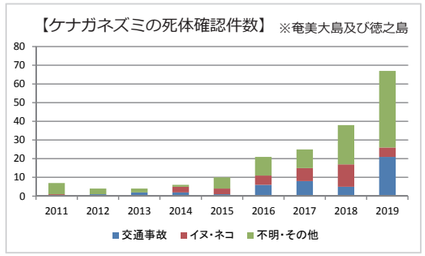
環境省奄美野生生物保護センターと奄美自然体験活動推進協議会では、毎年「やせいのいきもの絵画展」を開催しています。今年度は、生活の中で利用されている自然にスポットをあてたテーマを設定し、子どもたちには、自分たちで見つけたことや体験したこと、または大人の人から聞いたり勉強して知ったことを絵にしてもらいました。応募総数６６点。その中から１２点入賞作品が選ばれました。

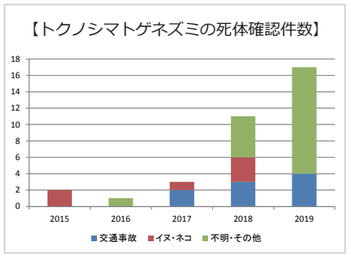
センターからのお知らせ

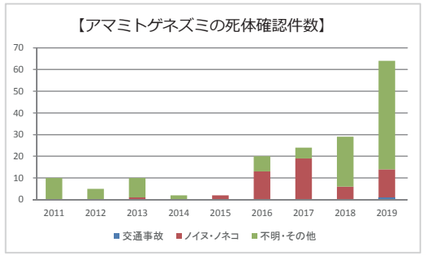
アマミノクロウサギとケナガネズミ、アマミトゲネズミ、トクノシマトゲネズミの年別死体確認数【過去最多を更新】

センターでは、野生動物の保護対策に活用するため、野生動物の死因を調べています。残念なことに死体確認数は全ての種で増加傾向にあります。2019 年は、100 件を超えるアマミノクロウサギの死体が報告され、ケナガネズミとトクノシマトゲネズミは交通事故死数が過去最多となりました。死体の腐敗などにより死因を特定することができない「不明」となることが多く、センターで把握できていない死体もあるため、もっと多くの野生動物がさまざまな原因で死亡していると考えられます。また、その他には、病気が死因のものも含まれています。最近の研究で、アマミトゲネズミが、主にネコが媒介する寄生虫に感染していたことが初めて報告されました。人が原因となる死因は、人の心がけで減らすことができます。ゆとりのある運転を心がけて交通事故死を減らし、イヌ・ネコを室内で飼育することで、野生動物をみんなで守っていきましょう。









奄美自然体験活動推進協議会　〒894-3104　鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551 奄美野生生物保護センター
ＴＥＬ：0997-55-8620　ＦＡＸ：0997-55-8621　Email：amami_rabbit@public-yamato.jp　（事務局）大和村役場企画観光課
ＵＲＬ：http://www.vill.yamato.lg.jp/shizentaiken/default.asp

奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。

今回は 瀬戸内町 です

油井岳から望む大島海峡と加計呂麻島

瀬戸内町は、大島海峡を挟んで加計呂麻島、請島、与路島の有人３島を含む、総面積 240ｋ㎡に及ぶ広大な行政区域を有しています。

【諸鈍のデイゴ並木】

沖縄との交易が盛んな頃に植えられ、樹齢３００年以上ともいわれています。５～６月に真っ赤な花を咲かせます。（町指定天然記念物）

瀬戸内町の木

自然環境への環境教育の取り組みの紹介「こども世界自然遺産博士講座」

本町では、平成 28 年度より「こども世界自然遺産博士講座」という、町内の小学４年生～中学３年生を対象とした環境学習講座を行っています（年９回）。

この講座は、身の回りの自然や動植物とふれあいながら学ぶことによって、自然保護の心を育むとともに「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」世界自然遺産登録に興味を持ち、自ら考え行動できる児童生徒を育成することを目的としています。

▲ロードキル防止看板を作ろう！

講座の最終日には 1 年間で学んだことの発表や、博士認定試験があります。試験に合格した子どもたちには、家族やお友達に学んだことを伝える役目を担ってもらっています。このような事業を通して、世界自然遺産登録への機運や環境問題への関心が高まることを期待しています。

▲国有林って何？

【講座例】
・世界自然遺産って何だろう？
・ハブについて学ぼう！　・夜の動物に会いに行こう！
・ロードキル防止、ポイ捨て禁止の看板を作ろう！
・奄美海洋展示館へ行こう！　・国有林って何？
・バードウォッチングへ行こう！　・外来種バスターズになろう！
・請島ミヨチョン岳に登ろう！・サンゴの白化現象って何？　など

▲請島ミヨチョン岳に登ろう！

（瀬戸内町教育委員会）

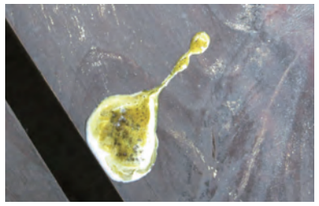
いきもののふしぎ ～ フィールドサイン「フン」のお話 ～

生きもの痕跡をフィールドサインと言いますが、フィールドサインには、足跡や食痕、フン、獣道、奄美群島では見ることが出来ませんが、シカの角とぎ跡やクマの爪痕などもあります。今回はその中のフンについて注目してご紹介します。

ポイント

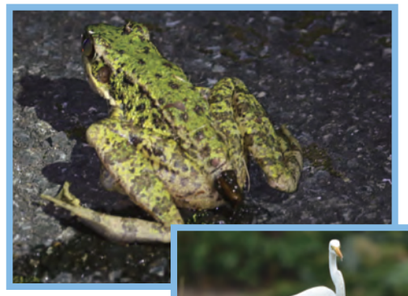
フンのかたちは、種類や食べたものによってそれぞれ違う

哺乳類、鳥類、両生は虫類、種類によってフンのかたちは違います。哺乳類でも草食か肉食でも違ってきますし、食べたものによってもかたちは違います。

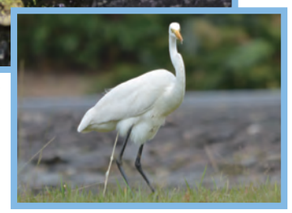


▲鳥のフン１
白い液状の尿酸と中心に茶色ぽいうんちがあるのがわかります。

▲鳥のフン２
イネ科などの穀物を食べると、渦をまいたフンをすることがあります。ハトがよく穀物を食べるので、この形のフンをすることが多いようです。

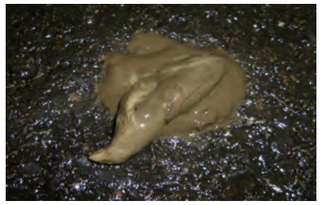


▲アマミハナサキガエルの排泄



▲ダイサギの排泄

▲ガなどの幼虫のフン
幼虫のフンは、５月頃になると木の下の地面にたくさん落ちていますね。フンとともに幼虫もふってくる、なんてこともよくあります。



▲オットンガエルのフン
フンのサイズは４～５㎝あり、マングースのフンとよく似ています。写真のフンはおそらくミミズを食べて出たもので、とても臭かったそうです。

▲アマミノクロウサギのフン
基本は楕円形ですが、食べものによって、涙型や三角型、たわら型などがあります。シイの実をたべるとクリーム色のフンになります。

▲ヤギのフン
クロウサギのフンに似ていますが、繊維が細かく表面がなめらか。基本的な形はたわら型。山で野生化していて、山のなかでもフンをみることができます。

▲ノネコのフン
山で見つかるノネコのフンには、高確率でアマミトゲネズミやアマミノクロウサギなどの希少種の毛や骨が見つかります。

▲イタチのフン
昔ネズミ対策のために多くの島に放されました。奄美海洋生物研究会が行った調査で、フンからキノボリトカゲの指の骨が見つかっています。イタチが放された島では、両生は虫類の数が激減したと言われています。

◀ヘビ（飼育下）のフン
山などの野外でヘビのフンを見つけることは、まずないと思います。写真の下の白いかたまりは固くなった尿酸です。上の茶色のかたまりがフンです。

奄美野生生物保護センターでは、毎年冬の時期に沢に入り、アマミノクロウサギのフン調査を行っています。フンの数やサイズを調べることで、アマミノクロウサギの生息状況を知ることができます。

制作協力：伊藤圭子、亘悠哉　写真協力：木元侑菜、亘悠哉

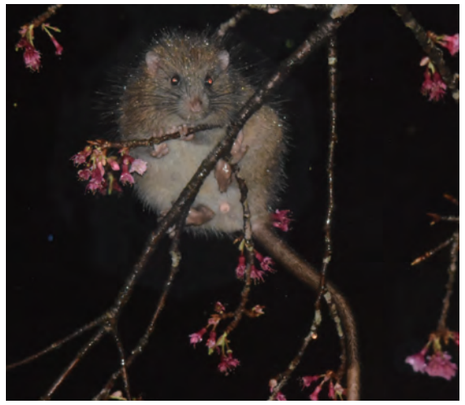
今の時期に見られる動植物

チケイラン
九州南部から琉球列島に分布する。岩上や樹上などに着生する。偽球茎といわれる貯蔵器官があり、細長いつぼ状のかたちをしている。

フウトウカズラ（実）
本州から琉球列島に分布する。海岸から山地や人里周辺のやや湿った場所に生える、つる性の常緑木本。

カンゾウダケ
全世界に分布している。肝臓のように見えることから、この名前がついた。食用で、生でもたべられる。独特な酸味がある。

ケラ
地中で生活しており、ビーーと鳴く。冬でも暖かい日は、鳴き声を聞くことができる。穴を掘るために、前足が発達している。



今季の一枚　「ケナガネズミ」

今年はシイの実が大凶作なので、野生動物たちはエサの確保に苦労しているようです。ケナガネズミが、ヒカンザクラの花を食べる姿は、例年だとまれにしか見られませんが、今年はたくさんみることができます。桜並木がある場所では、１㎡で５頭のケナガネズミを見ることができました。サクラのピンク色の花とケナガネズミの可愛らしい姿のツーショットで、いわゆるこれが映え写真かー！可愛いー！と嬉々として人間側の私は写真を撮りましたが、その背景は、エサを必死に確保するためになんでも食べなくてはいけない、ケナガネズミの必死な姿なのです。

参考文献　琉球弧野山の花（南方新社　写真と文：片野田逸朗）琉球弧・植物図鑑（南方新社　著：片野田逸朗）わきゃあまみ18奄美群島のむし120（奄美自然体験活動推進協議会・環境省奄美野生生物保護センター）